

第5回 森と水の源流館授業づくりセミナー（実践報告会）

大西 浩明

日時： 令和5年2月11日（土）10時～12時

場所： 森と水の源流館

方法： 対面式とZoomによるオンライン方式のハイブリッド

参加者：会場21名、オンライン20名 計41名

内容： 実践報告、ビデオ動画による取組紹介

【報告】

1. 広域からのつながり 岐阜市立長良中学校 堀公輔先生

きっかけ…地理の教科書 改訂されて近畿地方の事例で川上村を取り上げている
地域の課題をどう乗り越えているか

人口の偏りによる諸課題にどう乗り越えているか、地方の人々はどのように工夫し生活しているのか
社会的事象を足元に引き寄せる授業 「過疎化と向き合う川上村」

<授業概要> 中学校2年

川上村ってどんな村

自然豊か 吉野林業発祥の地 ダム建設 人口減少、、、

「川上村は10億円を使って何をしたと思う？」

- ・高速道路をつくったのでは？
- ・ショッピングセンターをつくった？
- ・テーマパークをつくった？
- ・高齢者のための施設をつくった？

「手つかずの原生林を10億円で買った」

なぜ？ 観光資源にした？

「今買わないと手遅れになる！」

一般客の入山は禁止

水源地からの川を通したつながり 「川上宣言」

美しい水 「水源地の村」がブランドになる 源流に住む者としての使命や誇り

「国立公園に指定してはどうか」という話があったのに、お断りした

なぜ？ おいしい話ではないのか！

指定されてはたくさんの方が来る 経済としては村にとってありがたいが…

自分たちの手で森と水を守る

自分たちの地域は自分たちで守る！ 総合で自分たちの地域について考えてみた

<意見交流>

○原生林から授業を展開された経緯は？

→ 教科書の記述 「下流域のために。。。」「教師自身にとっての驚き、疑問があった
実際に取材してみると、「これは授業化したい」と思った

○地元の長良川流域における同様の取組は？

1年長良川中流域 2年上流域の学習…水のきれいさを実感、生き物調査、下流域とのつながり



○川上村は経済だけを追いかけているのではなく、それ以外のものを求めている
何を「豊かさ」と捉えているのか 市民参加の重要性

2. 紀の川中流域の活動とのつながり 橋本市立あやの台小学校 中谷栄作先生

<実践概要> 小学校5年

「ぼくらがバトンをつなぐわけ」

何のために生きるか？

ちがうことはおもしろい 考えることは自由だ 分かり合うことはすてきなんだ
どのように子どもたちは変わってきたか

海釣り・野菜作り スポーツゴミ拾い 講演・インタビュー 販売と寄付

世界は変えられる みなさんにバトンを渡します

伝わるってうれしいな 遠くの人には何もできないと思っていた

エコ検定・エコレポート スポゴミ・エコチャレンジ

アースレンジャー認定式 エコマート 会社設立

流域まるごとゴミ拾い対決 ゴミゼロプロジェクト ゴミアート

川遊び・島探検・ビーチクリーン 森林散策・間伐体験

米作り・感謝会 フェアトレード・環境啓発

サンタクリーン作戦 集まる ありがとう

「バトンが種なら、私は土や水になってがんばりたい」

自分の生き方に満足できるような生き方をしたい！

学校には出会いをデザインするチカラがある

授業には学びをストーリー化するチカラがある

子どもにはつながりを受け入れるチカラがある

学校はどうするか？

つたえる つづける つながる つらぬく つきあう つなげる



3. 大和平野における水のつながり 田原本町立田原本小学校 中本篤志先生

「めぐる、めぐみ。」田原本町の水 ー自分たちの川のはたらきを見直そうー

源流館の「めぐる、めぐみ。」のポスターを目にして、授業化したい

<実践概要> 小学校4年

1学期 社会科での「水のはたらき」の学習

校外学習 森と水の源流館、大滝ダム

2学期 水の飲み比べ

田原本町の水と川上村の水

同じ水なのに

田原本を流れる寺川と川上村の川のイメージ調査

寺川と音無川の散策 水質調査（パックテスト）、

ごみ拾い、生き物調査

寺川・・・あまりよごれてはいないけど、ごみが多い



「二つの川の違いや役割について考える」

寺川は思っていたより案外きれい　生き物が多い　ごみがいっぱい

地域の川があるから作物も作れる

音無川はきれいだけど生き物が少ない　ごみが結構ある

バーベキューは禁止のはずなのに、そのごみがたくさんあったりする

吉野川分水の歴史について学習

大和乎和土地改良区からゲストティーチャー

「めぐる、めぐみ。」という言葉のメッセージについて考える

田原本小バージョンを考える

3学期　SDGsについて学習

寺川に設置する看板づくり

自分たちの持っていた寺川のイメージが変わった

川の役割の重要性に気付いた

自分たちの地域のよさや課題の再認識・再発見



【ビデオによる取組発表】

1. 奈良市立平城小学校　村上雄太先生

「ゆかし里に流れる秋篠川の魅力を発見し、川柳で未来へつなげよう」　小学校4年

気づいたことや感じたことを川柳に表現し、蓄積していく

平城地域の秋篠川は、どのような川なのだろう？

生き物調査、河川課の方をゲストティーチャーに

遠足で川上村の吉野川源流へ行き、生物調査をし、森と水の源流館の見学から、川を守ってきた思いに気付く

屋久島の小学校との交流

先生や保護者、地域の方にも川柳を書いてもらう

秋篠川を守るためには、自分たちになにができるだろう？

書き溜めた川柳を「かるた」にする　川上村からもらった材木の端材をかるた札に

→ かるた大会（3年生と）　行動変容につながっていないのが課題

2. 川上村立川上小学校6年生の発表

ダム役割の説明　川上村にあるダムの役割

和歌山の小学校との交流（ダム湖でのカヤック体験）

川上村がダム建設を受け入れた経緯

当然多くの反対があった　当時の人たちはものすごくたくさん悩み、考え、そして受け入れた

→ 仕方なく受け入れた人、村を離れた人も多くいる

「川上宣言」に込められた、水源地の村として生きていこうとする強い使命、思い
これから自分たちがどのように川上村で生きていくべきか